



読谷村陶芸研修所



# ヤチムンの里

## 伝統工芸

かつて古窯「喜名焼」があった読谷。琉球王朝時代に王府の命により各地の陶工は那覇の壺屋に集められ、喜名焼は途絶えてしまいました。しかし、一九七二年の金城次郎氏の招致と、米軍不発弾処理場撤去闘争の中から、軍用地の跡地利用として「ヤチムンの里」構想が生まれまし



読谷山焼の窯開きは1980年の7月。県内でも最大の登り窯を擁する窯場として稼働し続けています。1990年代からは若い世代の陶工たちが独立して「北窯」を主宰。ヤチムンの里は、新たな時代に向けて胎動しています。



人間国宝・名誉村民  
金城次郎氏  
一九一一年十二月三日生  
二〇〇四年十二月二十四日没

一九七二年に那覇の壺屋から喜名焼発祥の地である読谷村に移り住み、読谷壺屋焼・金城次郎窯を構えました。読谷村のヤチムンづくりの基礎を築くとともに、文化村づくりの一翼を担いました。

新垣榮用氏 現代の名工



稲嶺盛吉氏 現代の名工

## 土の息吹を人々の こころに咲かせよう

新垣氏は那覇市壺屋の窯元に生まれ、一九歳より作陶に従事。一九五一年に独立。一九九七年に読谷村に窯を移しました。新垣氏は、一九九一年に通産大臣指定伝統工芸士に認定され、一九九六年、陶磁器成形工で労働大臣表彰「現代の名工」としてその卓越した技能者として認定を受けています。



現在読谷村内には、「泡ガラス」で有名な稲嶺盛吉氏の工房のほかにガラス工房が六箇所あり、新たな産地が形成されつつあります。

## 琉球ガラス

稲嶺氏の泡ガラスは、再生ガラスを素材に火の温度とガラスの調合の微妙な操作によって生ずる気泡を、手早く精妙に処理し、作品化している技法です。

稲嶺氏は那覇市寄宮の生まれ。一九九八年「宙吹きガラス工房」を設立。一九九四年「現代の名工」として認定を受け、琉球ガラス草創期から宙吹き技法と素材の再生ガラスにこだわり、生業として心魂を打ち込んできました。